



みんなで探して 発見！ 身近な自然



いつもいきもの情報をありがとうございます。いただいた情報は、貴重な記録として集約いたしております。紙面の都合上全部をご紹介できないことをお許しください。みなさんが発見したいきものや自然情報をご紹介します！みなさんはどんな発見をしましたか？ふりかえってみましょう！

今年はどうな発見があったかな？



区民による身近な生物調査ロゴマーク

エナガ (エナガ科)



2月11日、駒沢オリンピック公園で目撃
(自然通信員)

「チー」という細い声はシジュウカラ科に似ていますが、「ツリユリュ」という声は独特です。

公園の植え込みや明るい林内で見られます。網状の頭部は古くなるにつれ黒くなります。

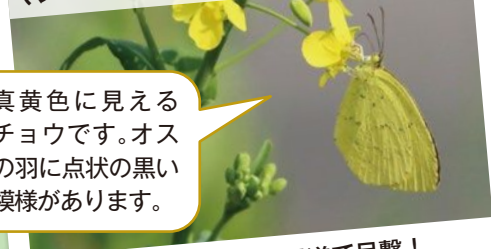
シロハラ (ヒタキ科)



2月10日、駒沢オリンピック公園で目撃
(自然通信員)

落ち葉をはねのけてエサを探します。

キタキチョウ (シロチョウ科)



真黄色に見えるチョウです。オスの羽に点状の黒い模様があります。

3月6日、呑川本流緑道で目撃！
菜の花の蜜を吸っていました。(自然通信員)

アミガサタケ (アミガサタケ科)



4月19日、柿の木坂で目撃
(自然通信員)

ひどく驚かされたとき、一時的な仮死状態となり相手をだます習性があります。この行動が「タヌキ寝入り」と呼ばれています。

タヌキ (イヌ科)



2月16日、めぐろ歴史資料館で目撃！
近づいてきて足元の臭いを嗅がれました。
(自然通信員)

こんないきものの情報も募集しています！

アメリカオニアザミ

最近、ヨーロッパ原産のアメリカオニアザミという植物が目黒区内でも確認されています。繁殖力が強く、ほかの植物の生育環境を奪う危険性があり、生態系被害防止外来種に指定されています。

トゲが硬く鋭いため、素手では触らないでください。



生育初期



花の様子

発見したら…

- 裏面の記録票を用いて情報をお寄せください。
- ご自分の所有地の場合は駆除にもご協力ください。

駆除する場合

- ケガ防止のため、革手袋などをつけてください。
- 多年草のため、根ごと除去する必要があります。
- 除去した個体は、種などが飛び広がらないようにごみ袋に入れて可燃ごみとして処分してください。
- トゲがごみ袋を突き破る恐れがあるときは、新聞紙などでくるんでからごみ袋に入れてください。

このような外来種は一度蔓延してしまうと、**根絶することが難しくなってしまいます。**

そのため、近所で見かけた際は、裏面の記録票を用いて情報をお寄せください。

いきもの情報募集中!

2021年は「植物と人の役に立っているハチについて」をテーマに身の回りのいきものを調べてみましょう。見つけたら、下部の記録票に記入し、みどりの係までお送りください。写真がある場合は一緒にお送りください。

ハチをさがしてみよう!



<p>①ミツバチのなかま</p> <p>見分け方のポイント!</p> <p>種類 ニホンミツバチ セイヨウミツバチ</p> <p>特徴 集団で生活し、巣に花粉や蜜を蓄えます。日本には2種のみが生息しています。</p> <p>見られる時期 3月～11月</p> <p>ニホンミツバチ セイヨウミツバチ</p>	<p>②キムネクマバチ</p> <p>見分け方のポイント!</p> <p>種類 クマバチのなかまは国内に5種いますが、本州で確認できるのは本種のみです。</p> <p>特徴 木の枝などに穴を開けて、巣を作ります。</p> <p>見られる時期 3月～10月</p> <p>キムネクマバチ</p>
<p>③ハナバチのなかま</p> <p>見分け方のポイント!</p> <p>種類 コマルハナバチ シロスジヒゲナガハナバチ トラマルハナバチなど</p> <p>特徴 体は毛でおおわれ、丸みを帯びたものが多いです。花粉や蜜を蓄える種類の総称です。</p> <p>見られる時期 4月～10月</p> <p>コマルハナバチ シロスジヒゲナガハナバチ</p>	<p>④アシナガバチのなかま</p> <p>見分け方のポイント!</p> <p>種類 コアシナガバチ フタモンアシナガバチ セグロアシナガバチなど</p> <p>特徴 長い後ろ足をだらんと垂らして飛んでいます。害虫を食べてくれる益虫です。</p> <p>見られる時期 3月～10月</p> <p>コアシナガバチ フタモンアシナガバチ</p>
<p>⑤ツチバチのなかま</p> <p>見分け方のポイント!</p> <p>種類 ヒメハラナガツチバチ キンケハラナガツチバチなど</p> <p>特徴 体は細長く、全体的に黒っぽい種が多く、うっすらと毛が生えています。土の中にいるコガネムシ類の幼虫に産卵寄生します。</p> <p>見られる時期 8月～10月</p> <p>ヒメハラナガツチバチ キンケハラナガツチバチ</p>	<p>⑥ハナアブのなかま</p> <p>見分け方のポイント!</p> <p>種類 ナミハナアブ アシトハナアブ ホソヒラタアブなど</p> <p>特徴 ハナアブはハエ目に分類されます。ハチとは目の大きさが異なります。</p> <p>見られる時期 4月～12月</p> <p>アシトハナアブ コマルハナバチ</p>

自然通信員番号:

お名前:

※ハチを見分ける際は、「ハチハンドブック(文一総合出版)」などの図鑑も参考にしてください。

記録票

上記以外のいきもの情報もお待ちします!

見つけたいきものの種名	いつ(年・月・日)	どこで(公園名。ご自宅は「庭」とだけ、緑道・川は町名と番地まで記入します)	観察した内容(数や様子など)、いきものたちへのメッセージ

◆観察情報や写真は郵便・FAX・メールでみどりの係までお送りください。みなさんからの情報をお待ちしております!



生物多様性と都市養蜂

都市養蜂の意義

都市養蜂は、自然との触れ合い機会の創出や地域ブランディングのために日本各地で行われています。

都市部にいながら、身近な公園や花壇で活動するミツバチを観察することができ、ハチミツの収穫を通じて自然の恵みを直接的に感じることができます。

また、ハチミツはその土地で生産されたものとして付加価値がつくため、地域の魅力や価値を発信することに繋がります。



ハチミツ採取

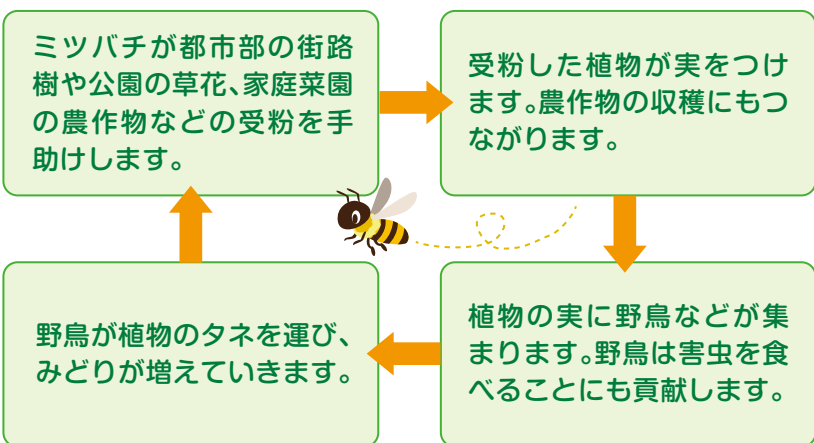


ハチミツを利用して作られた丘ばちビール

どんな効果があるの？

ミツバチは都市部の街路樹や公園の草花、家庭菜園の作物などの植物の受粉に対し、大きな役割を担っています。ミツバチなどの植物の受粉を手助けするいきものをポリネーター（花粉媒介者）と言います。

※ FAO(国際連合食糧農業機構)によると、世界の食料の9割を占める100種類の農作物のうち、約70種はミツバチによって受粉していると報告されています。



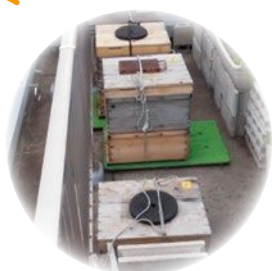
自由が丘 丘ばちプロジェクト

自由が丘でも、駅近くのビルの屋上で都市養蜂を行っています。街の緑化に取り組む「自由が丘森林化計画」のメイン事業として2009年3月に始まりました。

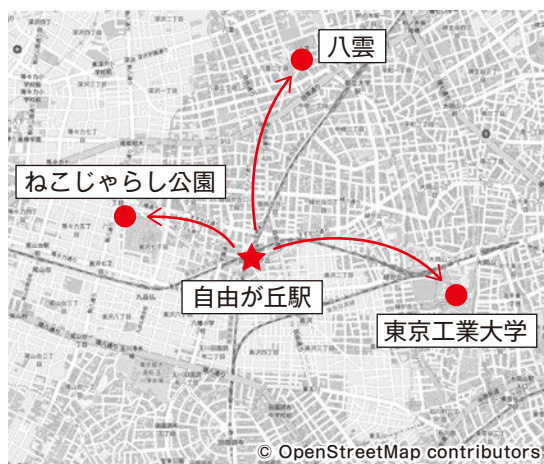
「ミツバチは、人と自然をつなぐもの」というコンセプトのもと6群のハチを育てています。



丘ばちくん



養蜂の様子



ミツバチの活動が確認されている場所



自由が丘商店街振興組合 中山 雄次郎 氏

毎年、良質なハチミツが取れます。それだけ、自由が丘の緑や花が豊かであるということを知っていただきたいです。

自由が丘にもツバメが飛来し、「ミツバチ」をエサとしており、生物のつながりを感じています。

自由が丘では、バラを広げる活動が行われています。このような活動がハチミツづくりに結びついていると感じています。

